

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
山田佳奈		yamakana@iwate-pu.ac.jp	
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
平井 勇介		岩手県立大学 総合政策学部 総合政策学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地域社会調査実習	IWKa-150902-0	7人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

【学生が果たした役割】事前学習として、既存データ・資料の収集と整理、調査項目の設定と調査票作成、対象者への聞き取り、結果の整理と報告書原稿の執筆、実習発表会での発表【実習全般に対する感想】調査全体を通して、実習生は地域の成り立ち（環境の諸条件や歴史など）をふまえながら、長く努力を重ねてこられた地域の方々のお話をうかがうことで、多方面から地域を考える視点を培うことができたと思えている。同時に、農業体験もさせていただき、地域の「第一次産業」をより深く理解する上で貴重な機会をいただいた。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

地域における第一次産業の推移と現在の展開

2. 調査の内容／概要：

上記テーマのもと、岩手県西和賀町を対象とし、事前学習をふまえ、(1)関連諸機関への聞き取り調査（質的調査）、(2)各施設見学と畑での体験実習を行った。実習全体としては、地域社会における産業（第一次産業を中心に）あるいは「生業」の歴史的な展開過程および現在の取り組みを学び、今後の地域産業の課題と展望について考察することをねらいとした。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

西和賀町における第一次産業（特に農業）の歴史および現在の展開や取り組みを学ぶため、西和賀町の行政機関（町役場）や町内の研究所、地域の物産を加工・販売している産業公社、さらに地域内の農家を範囲とした。

4. 主な調査項目：

様々な角度から地域の第一次産業を捉えるため、対象者によって調査項目は異なる。特に行政機関では西和賀町の農業の経緯と現在の取り組み、研究所では豪雪地帯である西和賀地域における農と食の歴史、公社では地域の食材を生かした加工の取り組み内容や事業展開の経緯と今後の展望など、である。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

現地での体験実習と調査票に基づく聞き取り調査、施設見学とその際の聞き取り。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

【実施時期】2015年9月に体験実習、同年12月に聞き取り調査（および施設見学）、【調査地】いずれも岩手県西和賀町、【調査員の数】実習受講生として7名

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

実際の対象者数としては多くはないかもしれないが、様々な視点や方向からの聞き取りをさせていただき、また、実際に畑作業や現場見学をさせていただくなど、学生の理解をいっそう深められる機会にも恵まれた。これらのことから総合的に見て、十分なデータを得ることができたと考えている。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

主として、(1)調査前・調査後に収集した既存データや資料の整理、(2)先行研究や先行事例からの論点抽出、(3)各聞き取り結果の整理と小括としての論点抽出、(4)以上の(1)・(2)・(3)をふまえた全体分析

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

豪雪地帯と言われる地域であるが、その中で工夫が重ねられ、技が継承されてきた歴史は独自の文化を醸成し、さらに現在ではその環境を生かす先進的な取組も行われている。近年は農業の6次産業化も盛んに進められており、オーナー制やキッチンカーの導入など、販路の拡大も積極的に行われ、これらが同町の行政・公社・農業従事者の協働により促進されてきたことが分かった。

10. 報告書刊行の予定と概要：

「地域調査実習II」（3年後期）と連動した全体報告書と、ご協力いただいた対象者および対象諸機関へのご報告および御礼の報告書（一般公開を前提とした報告書刊行の予定はなし）。